１．た・づ・な

就任のご挨拶

軽種馬育成調教センター

理事長　**伊藤　克己**

平成 18 年 3 月 14 日付をもちまして、（財）軽種馬育成調教センター理事長に就任いたしました。就任に当たり、ご挨拶申し上げます。

JRA は一昨年に創立 50 周年を迎え、日本で洋式競馬が行われるようになってからおよそ一世紀が過ぎてゆこうとするその後半の半世紀の間に、近代競馬の礎のもと世界的にみても稀にみる成長と発展を遂げて、今日ある中央競馬の姿を築き上げてきました。

勝馬投票券発売金総額が最高に至った平成 9 年以降、競馬を取り巻く状況は、JRA の発売金の減少に示されるとともに、地方競馬では競馬から撤退する競馬場が出てしまうほど厳しいものであります。しかしながら、JRA は、なお世界に冠たる売り上げを示すビックギャンブル産業であると言ってよいと思います。

JRA では今年を、50 周年の節目を過ぎた新たな半世紀に向かって進んでいく反転攻勢の年と位置づけ、次代に向けて中央競馬が上向いていく新たな基盤づくりができるよう取り組んでいくとしております。このなかで最も大きな課題は、これまでの競馬ファンから変わることのない支持を得るため、また、新たなファン獲得のためにも、ファンの期待に応えられる競馬を提供していくことであります。

競馬の魅力は、いうまでもなく優れた競走馬・サラブレッドの存在です。日本の競走馬の質的レベルは、近年の日本産馬、調教馬の活躍に示されるように、「世界に通用する強い馬づくり」の目標のもとに、素晴らしい進歩を遂げてきたと思います。これは、生産地・育成場・調教場・競馬場等での、馬に携わる関係者の皆さんのご努力の成果であります。

もちろん、これからも優秀な競走馬を継続的に作り出していくことが求められていることであり、生産・育成界の現場においては、技術の維持と更なる進歩をめざし、強い馬づくりのための日々の努力は今後も終わることはありません。

当財団の事業の目的は、まさに、競走馬の資質の向上を図り安定的な競馬の発展に寄与することであります。気持ちを新たにして事業目的の遂行にまい進

してまいる所存です。

当財団の事業の現況を簡単にご紹介しますと、平成5年10月8日開場以来14年目を迎えたJRA日高育成総合施設軽種馬育成調教場を利用する育成者と利用馬の数は順調に増加してきており、一日平均500頭を越す状況で、当初描いた日本のニューマーケットという趣が実感されるようになり、その運営の一翼を担う者として責務と誇りを新たにするところであります。

育成調教技術の調査研究と改善・普及事業は、JRA総研が進めている強い馬づくりの研究と連携し、育成の現場に有効に還元できるよう総研の協力を得ながら実施してきています。そのための普及誌BTCニュースは、本号で64号となりました。

育成調教技術者養成は、開始以来日高23期・宮崎6期で合計約300名を送り出し、現在一年間の教育期間内で実践的な騎乗技術を習得すべく、本年も日高で24期生21名を教育しているところで、育成技術の即戦力としての評価を受けているものと思います。

牧草及び草地土壌分析事業では、平成5年からこれまでに牧草4,150点、土壌8,450点を分析し、土壌と牧草養分の相関関係を解析し、これまでの成績をガイドブックとして発刊する計画であります。引き続き分析結果を牧場へフィードバックし草地及び飼養管理の改善指導を実施しいく予定で、なお多くの分析依頼が寄せられています。

引退名馬のけい養展示へのけい養経費の一部助成事業は、平成9年29頭からはじまり、本年は、約160頭に助成する予定で、拡大してきた事業を続けていくため、関係団体にはご理解とご協力のお願いをしているところであります。

平成3年に財団として発足して15年を迎えることとなりましたが、この間、ご指導、ご支援いただきました多くの団体、関係者の皆様に厚く感謝申し上げますとともに、引き続き当財団の運営に、ご理解とご協力をお願いいたしまして、就任のご挨拶といたします。